



南島原市から世界遺産を！
長崎の教会群とキリスト教関連遺産

『世界遺産登録へ』

～本年度は勝負の年～

本市の国指定史跡日野江城跡と原城跡が構成資産となっている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、長崎県や関係自治体と協力しながら、平成27年の世界遺産登録を目指して準備を進めてきました。

1月22日、登録に向けての準備が整ったため、下村文部科学大臣に世界遺産登録推薦書の原案を提出しました。推薦書を受け取った大臣は、「登録がスムーズにいよいよアップしたい」と話しました。また、別の日には、近藤文化庁長官が「暫定リストの中で、推薦への準備が一番進んでいる」と話しました。国内の世界遺産登録に関して重要な権限をもつ人のこのような発言は異例とも言えるもので、本市

明日の世界遺産

THE TOMORROW'S WORLD HERITAGE

CHAPTER.27



原 城 跡

としても、世界遺産登録に向けて大いに手応えを感じています。

平成27年に世界遺産登録を実現するためには、今年の夏頃までに決定される国内の推薦資産に選ばれる必要があり、本年度は、世界遺産登録に向けて、まさに「勝負の年」になります。

この「勝負の年」に、市では、より多くの市民の皆さんに、世界遺産登録への理解を深めてもらおうと、次のような取り組みを行ってまいります。

世界遺産に登録されるためには、訪れる人にその史跡が持つ価値を十分に理解してもらわなければなりません。市では、史跡の価値を伝えるために日野江城跡と原城跡の整備計画を作成しており、計画に沿って事業を実施します。また、史跡の案内所としての機能（ガイダンス機能）も重要ですので、原城文化センターを当分のガイダンス施設と位置づけ、展示の改修を行います。史跡の整備とガイダンス施設の充実が、世界遺産登録の最も重要な要件となります。

(1) 史跡の整備やガイダンス施設の整備

世界遺産に登録されるためには、訪れる人にその史跡が持つ価値を十分に理解してもらわなければなりません。

(2) 構成資産周辺の整備計画の策定

世界遺産登録には、史跡だけではなくその周辺環境も保全していく必要があります。また、登録されると多くの観光客が訪れることが予想されます。観光客をスムーズに受け入れ、市を満喫してもらうためには、ハード、ソフトの両面から「おもてなし」できる体制を作り上げておかなければなりません。

そのために、構成資産周辺の景観保全やアクセス道路、駐車場、トイレなどの便益施設を整備するための計画と市内全ての道路標示や観光標識について、統一した規格やデザインで整備するための計画を策定します。

(3) 市民理解を深める（市民啓発事業）

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、平成19年1月に世界遺産暫定一覧表に登録され、すでに6年が経過しましたが、「周知が足りない」、「なぜ世界遺産になるのかよく分からない」といった声が寄せられることがあります。

本市の歴史遺産をみんなの「たからもの」として認識し、登録に理解を深めてもらうことを目的として、特別企画展、シンポジウム、イベントの開催など、多くの市民啓発事業を行います。

皆さんの声をまちづくりに生かしませんか。～世界遺産推進の実行メンバーを募集～



世界遺産登録に向けては、市民全体で機運を高めていくと同時に、登録のメリットを最大限に受けられるための準備をしておく必要があります。

「南島原市世界遺産市民協働会議」では、市民の皆さんの機運醸成や世界遺産に関連したまちづくりのための取り組みを話し合い、実行することを目的として、「行動計画推進グループ」を組織しています。行動計画推進グループのメンバーは、随時募集していますので、世界遺産やまちづくりに興味がある人は、ぜひご連絡ください。

図 教育委員会世界遺産登録推進室 ☎050(3381)5101

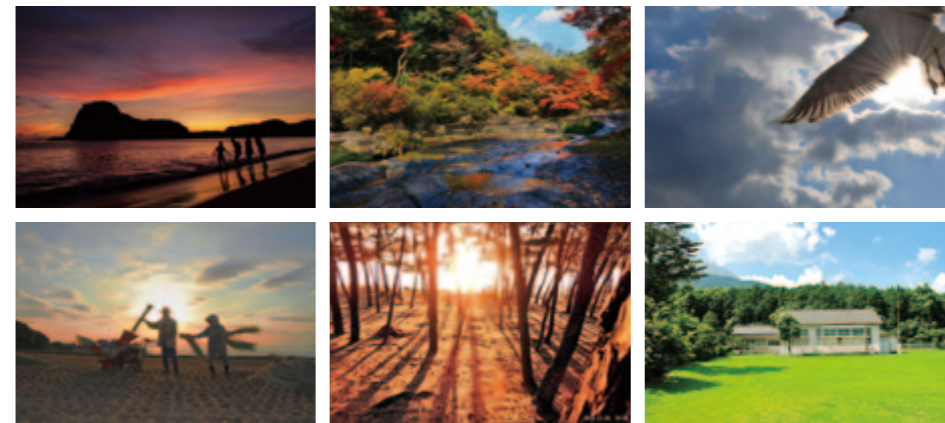
撮ってくれんね！南島原コンテスト グランプリ決定



巽 信吾さん（島原市在住）
「平成新山を望む」

市の魅力を伝える動画・写真を募集する「撮ってくれんね！南島原コンテスト」を昨年7月から今年の1月まで開催したところ、延べ901点の応募がありました。

各月に選考された月間賞の中から最優秀となるグランプリに輝いたのは、南有馬町白木野の棚田を撮影した左の作品です。



月間賞に選ばれた作品の一部

🏆 南島原が日本一

「撮ってくれんね！南島原コンテスト」に応募された作品を紹介する、同コンテストの公式フェイスブックページの「いいね！（登録者数）」が、9万人を超え、日本一を達成。熊本県のくまモンオフィシャルや佐賀県武雄市役所などを超え、自治体が運営するフェイスブックとしては日本一に輝いたと新聞やインターネットで大きく取り上げられました。

人口5万人のまちのページが、短期間で登録者9万人を達成できた要因は、市民や旅行者から応募された作品の良さにあります。四季折々の南島原の魅力を映し出した応募写真には「美しい、ぜひとも行ってみたい！」「懐かしくなった。故郷に帰りたい」という感想が多数寄せられているほか、このコンテストに応募するため市外県外、遠くは東京や北海道などから南島原に足を運んだという人もおり、知名度アップだけでなくとどまらず、直接的な観光誘致にもつながりました。また、海外からの注目も高く「私たちの国の風景と似ている」（インドネシア）、「いつか日本に行ってみよう」（メキシコ）など国境を越えて盛り上がりつつある様子もうかがえます。

開港450年を迎えた口之津港を構え、古き国際都市の風土をもつ南島原市が、今またソーシャルメディアを通じて世界中の人に注目されています。



←「撮ってくれんね！南島原コンテスト」フェイスブックページ

facebook フェイスブックとは…

交友関係などを構築するインターネット上のサービスの一つです



特集 塔ノ坂分校閉校(4～5)



平成25年度 施政方針(6～7)



特集 ひまわり人(16)

CONTENTS

撮ってくれんね！南島原	
コンテストグランプリ決定	2
明日の世界遺産	3
特集 塔ノ坂分校閉校	4～5
平成25年度 施政方針	6～7
平成25年度 市の当初予算	8～9
南島原にゆーす	10～15
特集 ひまわり人	16
まちの話題	17～19
復興への絆	20
島原半島世界ジオパーク	21
くらしの情報	22～23
南島原市図書館だより	24
国際交流員コラム	25
保健事業のご案内	26～27
市民カレンダー	28